

グループホームひなた「サービス評価」 総括表

令和8年2月9日

法人名	(福)三宝会 理事長 岡田泰稔	代表者	紫雲の園 施設長 岡田昌孝	法人・ 事業所 の特徴	昭和53年社会福祉法人三宝会設立。保育事業と介護事業を運営し、「大慈愛心」の法人理念のもとで地域の福祉に取り組んでいる。「GHひなた」においては、「ともに笑って、ともに歩んで」の介護理念を掲げ、利用者様の意思、人格を尊重し、利用者様お一人お一人に光が当たるよう、丁寧で温かなサービスを目指す。
事業所名	ひなた	管理者	柞木 晃		

出席(参加)者	市職員	知見を有する者	地域住民・団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	0 人	2 人	0 人	2 人	1 人	1 人	13 人	0 人	20 人

評価項目	評価	職員による自己評価・外部評価より	評価を受けての考察	来年度の目標
理念に基づく運営	良	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止の徹底 運営に関する利用者・家族等の意見の反映 身体拘束しないケアの実践 職員を育てる取り組み (外部) 運営に関する利用者・家族等の意見の反映 職員を育てる取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待、身体拘束は行われていない。研修参加や委員会との連携も行っている 職員教育の一環として虐待事例検討会を定期的に行っている 法人理念の確認、理念に基づいた行動や考え方の教育を続ける 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止・身体拘束は継続して実施しないと体制を維持する 不適切なケアや言動にも職員が敏感に指摘できる関係性を作る
	悪	<ul style="list-style-type: none"> 事業所と地域との付き合い 同業者との交流を通じた向上 運営に関する職員意見の反映 (外部) 同業者との交流を通じた向上 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の場を活用し意見や要望を取り入れ施設運営に繋げていくようにする 定期的な会議での意見を具現化する取り組みを作っていく必要がある 意見や要望を吸収し活用できる仕組みを再確認する 運営推進会議での資料閲覧や情報共有を施設内で行っていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 家族との面会を感染対策を講じた上で積極的に受け入れたり、外出の機会を増やし社会との繋がりを作る 運営推進会議での意見が施設内でも反映できる為の情報共有を図る

評価項目	評価	職員による自己評価・外部評価より	評価を受けての考察	来年度の目標
安心と信頼に向けた関係作りと支援	良	<ul style="list-style-type: none"> ・初期に基づく本人・家族との信頼関係 ・本人を共に支え合う家族との関係 ・利用者同士の関係の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時にしっかりとアセスメントを行い意向確認をしている ・本人・家族との関係性を確認し適度な距離感で維持できる支援を行う ・利用者交流が持てるような活動の機会を作るように継続して支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護について職員が学ぶ機会を作り施設全体のスキルを高める ・利用者様・ご家族様からの傾聴に努めるようにする
	悪	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの人や場との関係継続の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・面会の機会を保てるよう配慮する。 玄関先での面会だったが、事務所横のテーブル席で感染症に配慮した上でゆっくり話ができるようにする 	

評価項目	評価	職員による自己評価・外部評価より	評価を受けての考察	来年度の目標
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	良	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの現状把握 ・かかりつけ医の受診支援 ・過顎職との協働 ・入退院時の医療機関との協働 (外部) <ul style="list-style-type: none"> ・看護職との協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅時の暮らし方、嗜好の確認などのアセスメントを取った上で計画を作成している。 入居前の情報収集は施設入所後に援助していく(大切な物になる、今後も丁寧なアセスメントを実施) ・かかりつけ医との連携、看護職との協働など医療との連携は取れている。毎日看護職員がいない中、医療面での不安を軽減出来るように、小多機や紫雲の園とも連携し強化に取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの基本である、アセスメント力を高めるようにする(適切なケアマネジメント手法の活用) ・施設内での看取り対応を含め、嘱託委との連携を図り、安心して過ごせる施設を目指す
	悪	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源との協働 ・急変や事故発生時の備え ・災害対策 (外部) <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用できていない ・BCPマニュアルを施設内で周知し、訓練計画を研修計画たてて実践していく BCP更新を行っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・BCP訓練の定期的な実施を図り非常時に備える体制づくりを目指す

評価項目	評価	職員による自己評価・外部評価より	評価を受けての考察	来年度の目標
その人らしい暮らしを続ける為の日々の支援	良	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の尊厳とプライバシーの確保 栄養摂取や水分確保の支援 排泄の自立支援 安眠や休息の支援 (外部) <ul style="list-style-type: none"> 口腔内の清潔保持 排泄の自立支援 服薬支援 	<ul style="list-style-type: none"> バランスに考慮したメニューが提供され、定期的な水分摂取も積極的に支援している 日中は可能な限りリハビリパンツを活用しオムツ着用避け、トイレでの排泄を心がけている スマイル歯科との連携継続 薬剤師との協働、連携強化を図る体制を確保した 	<ul style="list-style-type: none"> 食事を楽しむ工夫、飽きの来ない提供方法、季節感を味わう事ができるよう配慮する 排泄の自立、トイレでの排泄維持 居宅療養管理・薬剤師との連携を構築していく
	悪	<ul style="list-style-type: none"> 食事を楽しむ事ができる支援 入浴を楽しむ事ができる支援 日常的な外出支援 お金の所持や使う事の支援 (外部) <ul style="list-style-type: none"> 入浴を楽しむ事ができる支援 日常的な外出支援 お金の所持や使う事の支援 電話や手紙の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 食事や入浴などの日常生活での支援は人員配置や集団生活の中では限界もある。施設入所の中で可能な限り満足して頂ける支援を継続する 外出に関しては人員配置の面からも難しいが季節ごレベルで実施できるようしている お金を使う、電話や手紙、今まで行ってきたことをできないと決めつけないで、実践する試みが必要 レクレーションや行事での支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 外出の機会を作り、季節の移り変わりを体感していただけるように支援する 季節ごとの行事を大切に実行できるようにする